

校庭の桜の木に蕾が付き始め、日を追うごとに春の訪れを感じる季節となりました。このような、本日良き日に、お忙しい中お越しいただきました、保護者の皆様をはじめ、ご来賓の方に参列を賜り、第四十七回卒業証書授与式を挙行できますことは望外の喜びでございます。

第四十七期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

ただ今巣立っていく三年生、百四十四名一人ひとりに卒業証書を授与いたしました。保護者の皆様におかれましても、日々慈しみ愛情を注いでこられたお子様の卒業に、言葉では言い表せない感動を胸に抱いておられることと、推察いたします。

さて、私にとって皆さんは豊津西中学校に赴任して送り出す、初めての卒業生です。皆さんとの出会いは昨年四月の始業式でした。どうやって接していかうかと迷っていた私でしたが、修学旅行の頃からは、カメラを向けても笑顔で返してくれたり、皆さんから声をかけてくれたりして、緊張していた私の気持ちをほぐしてくれました。五月からは、コロナウイルス感染症が感染法上五類に移行し、各種行事も制限が大幅に緩和されました。四年ぶりに全校生徒が体育館に入っただけの全校集会、全校生徒と保護者が参観できた「クラブ・総合学習発表会」、「体育大会」と、昨年までとは全く違う学校生活になった一年間だったと思います。我々も、久しぶりのフル参加可能な学校行事で、不安な気持ちもありましたが、その不安感は杞憂に過ぎませんでした。

「クラブ・総合学習発表会」は、各パートに別れ、チームによっては夏休みにも集まって練習に頑張っている姿を見て、微笑ましく感じました。本番が近づくにつれ皆さんの表情が、どんどん本気モードになっていくと同時に、楽しみながら取り組んでいる姿に四十七期生の力強さを感じました。そして本番では、その出来映えの素晴らしさに、見ている者全員が唯々感動しました。続いて実施された「体育祭」は、コロナウイルス感染症の影響で日程変更となり、更に天候不順による当日のプログラム変更があった中でしたが、三年生が率先して動き、また競技・演技・応援にと盛り上げてくれました。その思いが天に通じたのか、最後まで続けることが出来ました。特に、男子の「集団演技」女子の「ダンス」はお互いそれぞれの演技を応援し、見ている我々もその姿に思わず微笑んだものです。これらの行事で、皆さんは見事に「豊西力」を地域・保護者の方々に発信したのです。

これも今までの学校生活で皆さんが、進化し続けてきた結果だと思えます。三月に入ってから、最後まで全員が落ち着いて学習に集中し、進路に向け見事に『団体戦』を戦い抜きました。これら、当たり前前のごとを当然のようにしている姿から、「質の高い集団」に育っていると強く感じました。

そんな皆さんにお話していただけるのも、名残惜しいですが今日が最後です。この最後の機会に、饒の言葉を三つ送りたいと思います。

一つめは、江戸三大俳人の一人 小林一茶 の「蝸牛そろそろ登れ富士の山」という句です。「小さなかたつむりでも、自分の速さで着実に歩みを進めていくと、高い山の頂上にもたどり着く」という意味が込められていると思います。

皆さんが社会に出る頃には、「労働環境の急変、グローバル化・多極化の波の到来により、世の中の流れは我々大人が予想するよりもはるかに早く、将来は職業の在り方も様変わりしている可能性が高い。」と文部科学省は予測しています。まさに時代の変わり目

を皆さんは生きていくのです。Society 5.0に代表されるように科学技術の進化により、近い将来人間よりも優秀な、人工知能が登場するという予測もあります。こう言うと前途多難感が強くなってしまうですが、大切なのは、目標を明確に見据え、皆さん一人一人のペースで焦らず着実に歩みを進めていくことだと、この句は言っているのではないのでしょうか。

二つめは、「失敗と書いて成功と読む」という故野村克也さんの言葉です。野村克也さんは、「人間は、失敗してはじめて自分の間違いやいたらなさに気づく。そして、「どうして失敗したのか」「何がいけなかったのか」と反省し、「どうすればうまくいくのか」「何をすればいいのか」と真剣に考える。この程度で、人間は成長するのである。」と言っていると思います。失敗することによってやり方を改めることができ、むしろ成功へと繋がることになるから、一度や二度の失敗にくじけず、くじけそうな時は、『いつか必ずうまくいく』と自分自身を勇気づけて、取り組み続けてください。

三つめは、『実るほど頭（こうべ）を垂れる稲穂かな』と言う諺です。これは、「稲が実を熟すほど穂が垂れ下がるように、人間も学問や徳が深まるにつれ謙虚になり、小人物ほど尊大に振る舞うものだ。」という意味です。

皆さんが今ここにこうしていられるのは、皆さんの頑張りはもちろんですが、同時に多くの人の力添えがあったことは分かっていると思います。

「ありがとう」この言葉は謙虚な気持ちを持っていないと、相手には伝わりません。また、たった五文字ですが、この言葉にいろいろな思いを込めることが出来ると思います。これからますます多くの人と関わり、助けてもらい、また励ましてもらい、皆さんは成長していきます。感謝の気持ちを是非伝えられるようになってください。

以上、私が話した三つのことを頭の片隅にでも留めて、これからの人生を一步步歩いてみてください。万一迷いや、困ったことがあればこの豊津西中学校を訪れて、皆さんが仲間とともに過ごした3年間を思い出してください。きっと解決に向けてのヒントがあるはずです。皆さんは、この豊津西中学校で「人とつながる力」を学んだはずですから。また、皆さんには「無限の可能性と創造力」があります。時代の変わり目だからこそ、自分の可能性を信じ、自分の人生の中で素敵な主人公であってください。

さて、保護者の皆様、お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。至らぬ点多々あったかと思いますが、三年の担任をはじめ教職員一同、精一杯努力して参りました。それに応え、子どもたちもよく頑張ってくれました。この間、保護者の皆様からいただきました、本校教育活動に対するご理解・ご協力に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、公私何かとご多忙の中、ご臨席賜りましたご来賓の皆様、高いところからではございますが、厚くお礼を申し上げます。これからも、地域において、卒業していく生徒の成長を温かく見守っていただけたらと存じます。今後とも、本校教育活動の推進に、一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

さあ、巣立っていく四十七期生の皆さん！皆さん一人一人が人生の主人公です。無限の可能性へ大きく第一歩を踏み出してください。皆さんの限りない成長と今後の活躍を願って、私の贈る言葉といたします。



令和六年三月十三日

吹田市立豊津西中学校

校長 森田 直樹